コラム

98

中嶋哲夫の「人事も歩けば」

わが家宝

筆者は，民謡に興味があります。車を運転するときには，民謡かお経を聴いています。気持ちが落ち着くので，安全運転につながると信じているのですが……。

そこで，今回は民謡の話です。日本には，４～５万曲があるそうです。そのほとんどは，仕事唄。みんなの力を集中するための唄（土搗唄＜どつきうた＞や漁唄など），１人作業の退屈さをしのぐ唄（馬子唄，糸繰り唄），野外での１人作業時に，お互いの安全確認を行う唄（草刈唄）。唄に託して，相互の想いを異性に伝えたとも聞きます。唄は，さまざまな機能を果たしていました。

いま，私たちが聴くのは，民謡歌手などの唄です。聞かせどころを考え，技巧を凝らした唄。一方，作業唄は，働く人が日常的に口にした唄で，衒い（てらい）はありません。何回も聴くと，歌い手の生業が思い浮かび，深い味わいがあります。作業頭の音頭に呼応する作業員の掛け合いは，エールの交換にも聞こえます。１人唄は，鼻歌のようです。聞いているこちらも，肩の力が抜けます。

このような作業唄を記録し，CDにまとめた方がおられます。阪田美枝さん。同志社女子大学で図書館司書などをしながら，杜氏（とうじ）や紙漉き（かみすき）職人を全国に訪ね，仕事唄を録音したCDブックを編集されました。1992年に「日本の紙漉き唄」，1999年に「日本の酒造り唄」を出版されています。どちらもCD４枚組に加えて，楽譜と歌詞をまとめた冊子がセットになっています（ちなみに，紙漉き唄は著名な民俗学者も認識していないマイナーな仕事唄です）。紙漉き唄をまとめた本は総和紙製。生産者から提供されたそうです。手になじみ，眺めても，聴いても，触っても楽しい仕上がりです。

▲『日本の紙漉き唄』と『日本の酒造り唄』

CDには，阪田さんの笑い声や，歌い手との会話が収録されていることもあります。ともに楽しみながら，録音された雰囲気が伝わります。冊子には，著者の文章も掲載されていますが，それは脇役。感謝の気持ちを伝える文章です。阪田さんは，1999年に退職されました。筆者がお目にかかる機会は得られないままです。ただ，２冊のCDブックから，そのお人柄が想像できます。自分が素晴らしいと思ったことを記録する。揺るがずに，ひたすらに脇役として記録し続けた方。そんな方だと想像しています。見習いたいところです。

（MBO実践支援センター代表）